

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	介護度の高い施設高齢者の誤嚥性肺炎をいかに予防するか —看護師への嚥下・口腔ケア、吸引の重要性の啓蒙と実践—
演者名	下川敦子、中川麻美、川崎香織、藤巻力也、三上 巖、佐々木淳
所属	悠翔会在宅クリニック早稲田

目的

高齢化社会の日本では、肺炎、特に誤嚥性肺炎は高齢者における死因の高い疾患となっている。施設に入居された介護度の高い高齢者の多くは嚥下機能が低下していることが多いため、容易に誤嚥性肺炎をきたしやすい。従って、いかに誤嚥性肺炎を予防するかは大変重要である。当クリニックが診療を行っている特別養護老人ホーム入居者の誤嚥予防のために、施設内に勤務する看護師に嚥下・口腔ケア・吸引の重要性の啓蒙と実践を行ったので報告する。

実践内容

1) 嚥下・口腔ケアの重要性を理解していただくため、専門医の講演に参加していただいた。クリニック内で行われた講演会に気軽に参加していただいた。2) 食事・水分摂取で咽せが見られる入居者は、嚥下機能を歯科医に評価していただくように指導した。3) 食事形態や水分摂取の投与方法についての指導を歯科医に依頼した。4) 食後の口腔ケアについての指導も依頼した。5) 看護師だけでは対応困難な夜間の吸引に対しては、介護士が口腔内吸引を行えるように講習に参加していただいた。

実践効果

専門医の講演会参加により、嚥下・口腔ケアの重要性を理解していただいた。これにより、咽せが見られる入居者に対し、嚥下機能評価を積極的に行うようになってきている。また嚥下機能評価を行った歯科医から、直接、食事形態や水分摂取の投与方法についての指導を得ることで、入居者の咽せる回数が減少した。介護士が口腔内吸引できることで、夜間の気管内への唾液の垂れ込みは少なくなったと思われる。誤嚥・発熱を繰り返していたある入居者は、咽せはみられるものの、ほとんど発熱なく経過している。

考察

講演に参加した看護師が嚥下・口腔ケア、吸引の重要性を理解した事により、施設内のスタッフが徐々にその重要性を認識するようになってきた。皆が共通認識するように、更に啓蒙をすすめていきたい。